

経営理念：レスパイトケア（ケアしている人をケアする）

経営方針

- 1：一人一人の個性を尊重し、尊厳を守る（人権尊重）
- 2：社会での自立を促し、ご家族と共に推進する（自立支援）
- 3：楽しく遊ぶ 個人の潜在能力を開花する手助けを行う（能力開発）
- 4：日常生活に必要なマナー（作法）を学ぶ（社会性学習）
- 5：コミュニケーションの能力を開発する（能力開発）
- 6：持続可能な障害児童教育サービスの裾野を広げる（事業の目的）



人権尊重

人権は自分の権利について、同時に自分以外の人々の権利についても合わせて尊重し尊厳を守るといふ健全な社会の基本原則をさまざまな場面で学び、学習し、実践する機会を作っていく。

療育期間後の自立について本人と家族の希望を尊重し適切な能力開発のための支援をサポートする。

自立支援

活動

能力開発

潜在的な能力を開花し、伸ばすためのサポートを日々の療育活動の中で見出して行く。その一助として相互のコミュニケーション力を育てて行く。

心身機能・構造



社会性学習

事業の目的



健康状態



持続可能な社会性を育成するには作法が重要と捉え、問題解決の具体的な行動を学習する。

参加



持続可能な療育を提供できる企業体力の向上と健全経営を図る。5つの方針をバランスよく推進する。

個人因子

体験プログラムへの参加等の様子を見て本人支援の療育プログラムに反映させていく

環境因子

家庭支援、療育の関係性を見据え連絡で進める。

移行支援、家庭・学校・児童館活動と連携を踏まえ 支援する。

地域支援、例えばよく利用する周辺地域公園等の清掃をする。

職員研修、外部講師招聘 児童心理学・行動療法の座学実施

フィジカル/メンタル発達支援のためのアクティブプログラム 事例

- ・ 日常生活におけるフィジカルアクトプログラム
- ・ 集団生活における人間関係の構築支援プログラム
- ・ 次のステージに向けての就労支援プログラム
- ・ 長期休暇時における生活能力向上のためのプログラムの開発実施をご家族、学校との連携で進める。
- ・ 食育指導を通じ、マナー教育、生活自立化の観点でプログラムを開発する
- ・ ゲーム活動を通じた療育（連想ゲーム、しりとり等）
- ・ 着座して行う行動を通じた基本的生活習慣の学び
- ・ 習字学習、カレンダー制作を通じた時間概念の学習や空間知覚発達支援
- ・ スポーツを通じて 身体機能発達や人間関係性の学習、ボールを扱うことでの神経刺激
- ・ 高等部の支援 就労 機能訓練 課題学習 ウォーキングによる体力づくり →経営上の戦略と捉え実現に向けて推進します。
- ・ 校外学習プログラムの実施による、社会性、協調性、生活視野の拡大、知覚刺激

通所の特徴

サステイナブル

スタッフ研修制度、上位資格取得サポート、福利厚生制度、有給休暇制度等

しっかりとした経営理念のもとに、通所の運営にかかわる重要なファクターとしての人財を重要視する経営を旨とします。良い職場環境は、スタッフのみならず、利用者様にも快適で安心な居所ということになります。スタッフが働きやすく、働きがいを感じる環境に注視してまいります。また、日々変化する障害児教育の進歩に即応できる知恵や知識を共有する学習の機会を多く取り入れてスタッフ個人の資質の向上をサポートする事業体制を構築します。

経験値を共有化し、制度に反映させてスタンダードにする。

スタッフはいつでも上位ステージにチャレンジできる

得意なノウハウ

旅行業経営ノウハウを活かして、児童発達支援管理者と共にアクティブで有効的な支援プログラムの造成をサポートします。同時に、近年さらに重要性が増してきているレスパイトケアプログラムの充実を図ることで、障害児をサポートする体制を点から面へさらに3次元へ展開していく社会環境の構築のための一助に資する覚悟です。

具体的には、ご家族様向けのバリアフリーな体制が充実している保養施設や宿泊施設の紹介、短期入所施設の紹介、バリアフリー思想が先行している諸外国の施設の紹介、旅行手配等のサービスを提供します。

レスパイトケアを広く日本に普及させて、障害児教育の相互扶助的社会を推進する。その根底にある思想は、ストレスフリーな教育環境を整えて地域社会の総力で取り組むことを提案していく。

課題解決

職場ルーティンの中で、児童の送迎が欠かせないものの1つになっている。保育や学習指導に傾注したいところであるが、日々の業務で送迎の担当を保育士が行う事による負担がクローズアップされてきている現状がある。すなわち運送のプロではない者が実施することによる心理的負担の軽減を図ることが、より良いケアや安全管理に深くつながってくる。運送の専門家に外注することで本来の障害児教育に特化した時間配分が可能となり、質の高いケアを目指すことに取り組む所存である。